

委員 長 報 告 書

総務委員会は、平成 25 年 10 月 28 日（月）、29 日（火）の 2 日間 熊本県水俣市において「環境モデル都市づくりについて」、熊本県宇城市において「まちづくり 1%事業について」、視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

記

水 俣 市	市制施行	昭和 24 年 4 月 1 日
	人 口	26,773 人
	世 帯 数	12,183 世帯
		(平成 25 年 9 月 30 日現在)
	面 積	162.89 k m ²

水俣市は、熊本県の南端、鹿児島県との県境に位置しており、西は八代海（不知火海）に面している。全市域の 75%が森林原野で、三方を山と丘陵に囲まれており、また東西には水俣川が流れ、平地は少ないが、海、山、川の流域生態系を持つ豊かな自然環境に恵まれている。

明治 41 年 8 月にチッソ株式会社の前身である日本窒素肥料株式会社が設立され、従来の農漁村集落から工業都市へと発展し、人口も増加し昭和 31 年には約 5 万人になったが、昭和 31 年に水俣病が公式確認され、また基幹産業であるチッソの業界不況による規模縮小等により、人口は大きく減少し、過疎化、高齢化が進んでおり、高齢化率は平成 25 年 6 月で 33.0%である。

また一方で、水俣病の教訓をもとに平成 4 年に日本初の「環境モデル都市づくり宣言」を行い、地球温暖化防止活動や環境保全活動に市民協働で取り組んでおり、環境 N G O 主催の全国先進環境自治体が参加する「日本の環境首都コンテスト」でも高く評価され、平成 23 年には「日本の環境首都」の称号を獲得していた。

【環境モデル都市づくりについて】

1. 環境モデル都市づくりに取り組む経緯について

水俣市では、古くから豊かな自然環境が住民にとって誇りであったが、昭和 31 年に公式確認された水俣病により環境が破壊され、住民の健康被害

(直近で認定患者数は2,274人、うち死亡者は1,750人)、差別や偏見に苦しんだ。公害防止事業として水俣湾のうめ立てに485億円、13年間の年月がかかった。この「環境で破壊されたまち」という負の個性である水俣病を、環境によりまちを再生することでプラスへの価値の転換をはかろうとの機運が高まり、1990年代から環境について取り組みがはじまった。平成4年には、水俣病のような公害を二度と起こさない環境を大切にしたいまちづくりをしようと日本初の「環境モデル都市づくり宣言」を行った。

2. 環境モデル都市づくりの取り組みの主なもの

①地区環境協定制度と村丸ごと生活博物館

環境保全のための住民の生活ルールを明文化した協定を守った生活をしていく取組で現在8地区で締結されている。

また、建物や田畑、知恵や言い伝え、そこに住む人々といった村のすべてを博物館に見立てた「屋根のない生活の博物館」として4地区を「村丸ごと生活博物館」として指定し、市が認定した「生活学芸員」と「生活職人」が村の普段の暮らしを楽しむ「生活の旅」を訪問者に提供する。無駄のない暮らしの体験学習や郷土料理を味わいながら、過疎問題、里山保全、文化や技の継承、資源循環型社会等について学ぶことができ、多くの方々が訪れている。

②ごみの分別

水俣市の有名な取り組みであり、市民が主体となって徹底的な分別を行っている。約40世帯に1ヶ所、市内約300ヶ所に資源ごみステーションを設置、地区のリサイクル推進委員と当番が指導にあたり、ゴミを持ってきた住民一人ひとりが分別を行う。収集ゴミは24種類と大変高度に分類されているのが特徴である。ごみステーションでは世代を超えたコミュニケーションが図られ、環境学習の場となっている。分別されたゴミはリサイクル資源として一部有価処分され、その売却益は排出量に応じて各地域に還元され、地域独自に取り組むさまざまな自治活動の財源に充てられている。ごみのリサイクル率は約40%と非常に高い。

③環境マイスター

農業、水産業、畜産業など幅広い分野で環境や健康に配慮した安心安全なものづくりに携わる方々を、市が一定の条件のもとで「環境マイスター」として現在35人を認定している。

④円卓会議（5つの部会）

環境モデル都市づくりを市民協働で推進するため、具体的な取り組みや事業内容を検討・実施・検証する円卓会議を設置し、市民、事業所、市役所担当者が月に1、2回集まり、意見を出し合っている。「ゼロ・ウェイスト」、「食と農と暮らし」、「自転車・公共交通」、「環境学習」、「ISOのまちづくり」の5つの円卓会議がある。

⑤地域丸ごと環境ISO

水俣市役所は平成11年に環境マネジメントの国際規格であるISO14001に認定取得した。このことをきっかけにして、家庭版、学校版、保育園・幼稚園版、お店・事業所版といった水俣市独自の環境ISOも誕生し、住民、事業所、行政が一体となって「水俣地域全体丸ごとISO」を目指し取り組んでいる。

宇 城 市	市制施行	平成 17 年 1 月 15 日
	人 口	62,014 人
	世 帯 数	23,264 世帯
		(平成 25 年 9 月 30 日現在)
	面 積	188.5 k m ²

宇城市は、平成 17 年 1 月 15 日に旧宇土郡三角町、不知火町、下益城郡松橋町、小川町、豊野町の 5 町が合併し誕生した。

熊本県のほぼ中央に位置し、熊本市と八代市のほぼ中間にあり、九州の経済大動脈である国道 3 号と西は天草、東は宮崎県への結末点という地理的状況に恵まれ、田園風景と不知火海の文化に彩られた自然景観、そして都市的機能を併せ持つバランスの取れた豊かな地域である。

【まちづくり 1%事業】

1. 事業の概要

住民自治組織、NPOやボランティアなど市民活動団体等の方々が考えているまちづくり（地域住民が主体となって行う地域の活性化や地域内の交流）のアイデアや、既に取り組みされている事業に対し、市民税の 1%（宇城市の場合 2,000 万円）を財源に、事業にかかる経費を補助し、団体等の自主的、自発的な活動を支援する制度である。提案については、市民により組織する「まちづくり 1%審査委員会」で内容の審査を行い、採択の可否を決定する。群馬県太田市の事例を参考にして、平成 20 年度より実施している事業である。

2. 事業提案の募集時期

通常 4、6、8、10、12 月の 5 回である。

3. 対象事業者

対象事業者は自主的・主体的に事業を企画立案し実施する団体で、住民自治組織や特定非営利活動法人（NPO法人）、ボランティア団体などの市民活動団体で、営利を目的とする団体は対象外である。

4. 対象事業

対象事業者は（1）市内で実施される事業、（2）住民及び構成員の労力提供等がある事業、（3）地域社会への貢献が期待できる事業、（4）継続

可能な事業、(5) 他の補助金等受けていない事業（国、県の補助金は可）、
(6) 他の法律、条例等に抵触しない事業、(7) 年度内に実績報告を提出
できる事業、のいずれにも該当する事業で、営利目的、政治又は宗教的活
動等に関する事業は対象外。

5. 事業の採択

まちづくり1%事業審査委員会において、①目的・課題の明確さ、適切
さ、②解決方法の先駆性、独自性、③地域性、④公益性、⑤事業の実現性
及び実施体制、⑥団体・事業の発展性及び継続性、以上を基準に審査を行
っている。24年度から提案団体による5分間のプレゼンテーションを行っ
ている。

6. 補助金額

提出された予算書に基づいて審査委員会で決定する。10項目に設定した
対象経費（項目にない経費は要審査）の総額以内で、50万円を限度とする。
事業収入がある場合は、収入を差し引いた額の範囲内となる。

7. 事業実績

平成24年度は16件で補助金額は567.2万円。23年度は11件、355.9万
円。22年度は12件、320.8万円。21年度は19件、533.9万円。20年度は
23件、652.7万円。

8. 今まで採択された事業の一部の紹介

①避難誘導板整備事業

自主防災会からの提案であり、避難所誘導板の作成・設置や防災マップ
の作成で、材料費や印刷製本費が対象となった。以前から高潮被害のある
地域で、誘導板の材質については木材からアルミ材へ変更するよう市が助
言した。

②区内の生活環境整備事業

ある地区の公民館に隣接していた老朽家屋を解体し、その敷地を広場と
花壇に整備し快適で住みやすい生活環境にする。解体費のみを対象とした。

③新幹線観覧のための遊歩道の整備

映画「奇跡」のロケ地となった新幹線トンネル周辺の歩道や公園整備を

実施し、ウォーキングコース等に利用する。映画では「新幹線の始発列車同士がすれ違うときに奇跡が起きる」とされ話題となった場所で、九州新幹線の線路を上から眺めることができる。補助対象は、土止め板・クラッシュラン等の材料費と機材借り上げ料。

④「夢の花咲く島」プロジェクト

天草寄りの島で、サクラを植栽し花いっぱいにして島の振興を図り、地域の連帯感を深める。補助対象はサクラ苗や肥料等の材料費と機材借り上げ料。

以上、概要を報告いたします。なお、詳細については議会事務局に資料を保管していますのでご覧ください。